

題材名: 『わくわくスーパー』で、数えた野菜の数を記数したり、野菜をドットと対応させてそろえたりして、スーパーを経営しよう

学習指導要領の段階と内容

小学部 2段階 A数と計算	知・技	ア(ア)①ものの集まりと対応して、数詞がわかること。 ②ものの集まりや数詞と対応して、数字がわかること。
	思・判・表	ア(イ)⑦数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。
	学び	数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさや良さを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。


知・技	『わくわくスーパー』で、11~50個の野菜の在庫を確かめる時、数量と対応する数字や位と対応する数量がわかり、数えた10個のタイルをまとめて位取りシートの十の位の枠内に、端数を一の位の枠内に置き、位ごとのタイルを数え、総数をボードに記数する
思・判・表	1~50までの数の様々な野菜(具体物)の在庫を確かめる時、位と対応する数量を考え、10のまとまりの数量と端数となる数量を判断し、10個の具体物をまとめて位取りシートの十の位の枠内に、端数を一の位の枠内に置き、具体物の総数をボードに記数する
学び	野菜を数え取って記数する課題に繰り返し正しく取り組む

教材と仕組み

教材名: 『わくわくスーパー』
・在庫の野菜の数を記数して、スーパーを経営する

《展開場面》
・野菜タイル(半具体物)を数えて記数する課題に取り組む

《発展場面》
・数える対象を野菜(具体物)に変えて、記数する課題に取り組む



【位取りシートで数える】

10	1
----	---

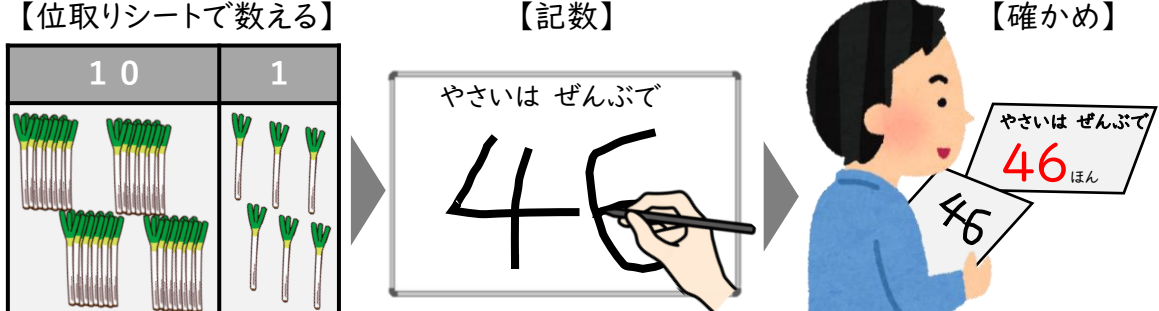
【記数】

やさいは ぜんぶで

46

【確かめ】

やさいは ぜんぶで 46 ほん



観点別評価

知・技	数えたタイルを10個ずつまとめて位取りシートの十の位の枠内に、端数を一の位の枠内に置き、タイルの総数をボードに記数することができた
思・判・表	数える対象を様々な野菜に変えても、数えた野菜を10個ずつまとめて位取りシートの十の位の枠内に、端数を一の位の枠内に置き、野菜の総数をボードに記数することができた
学び	様々な野菜を数えて記数する課題に、繰り返し正しく取り組む姿が見られた

関連する授業づくりの手順

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

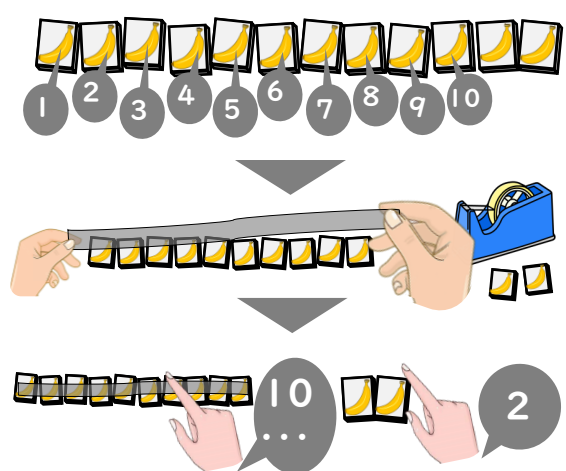
学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

R研で毎時間の授業の評価・改善

50までの数唱ができる生徒が、2位数の数量を位取りの仕組みを理解するための題材計画と働きかけの工夫!!

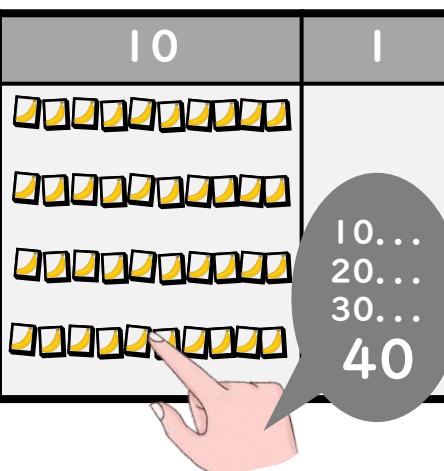
一次	二次	三次
1	2・3	4
11~19個の	10・20・30・40・50個の	5・6
	11~50個の	7・8
	野菜の在庫を確かめる時、	
数量と対応する数字	十の位の数量	位と対応する数量
1個ずつ数え	10個をまとめて位取りシートの十の位の枠内に置き	端数を一の位の枠内に置き
10個のタイルをテープで留めて記数する	10とびで数える記数する	位ごとのタイルを数えて記数する

10個のタイルをテープで留めて数える様子



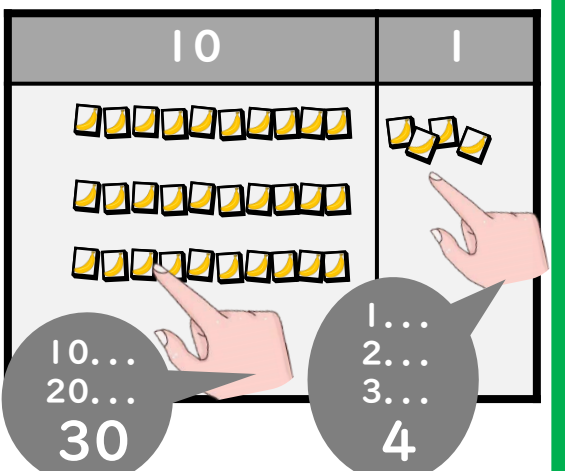
*10個で一つのまとまりと捉えることができるように、10個数えた後にテープで留める

位取りシートを使って10のまとまりを10とびで数える様子



*十の位の数量がわかるように、位取りシートを使って10のまとまりを10とびで数える

位取りシートを使って10のまとまりと端数を分けて数える様子



*位に対応する数量がわかるように、10のまとまりと端数を位取りシートで分けて数える

考察

○10個のまとまりの数量を使って操作したり、数えたりすることができるように、テープを使ってまとめることで、10個の数量を、一つのまとまりとして捉えたとともに、「10、20、30、40、50」などと10とびで答えることができるようになった

○数える対象を、展開場面では『タイル(半具体物)』、発展場面では『野菜(具体物)』に数える対象を変えて取り組むことで、身につけた内容を生活に生かす力につなげることができたと考える

